

会山行報告書

会名	裾野麗峰山の会	報告者	文・写真 後藤
年月日	2016.06.04(土)晴・頂上冷風気温低		
山名	八ヶ岳・蓼科山(2531m)。		
2万5千図	蓼科	距離	片道=180Km
やっぱり郭公は鳴いていた			
コースと タイム	下土狩5:00-新東名-甲府-諏訪IC-竜源橋発8:14-天祥寺平9:30-蓼科山荘10:59-蓼科山11:54-昼食12:00~33-スズラン峠-竜源橋14:55-下土狩18:30		
標高差	上り 竜源橋約1650m~蓼科山2531m=約881m 下り "		
困難度	普通		
参加者	後藤、室伏、峰田、長谷、伊藤=5名		

梅雨に入る前、最後の晴天日だった。少しイイ山を狙って、久しぶりの蓼科詣で。蓼科別荘地はレンゲツツジが満開だった。今回は迷わず竜源橋着。車はなかった。涼しくて快適。むしろ手の指はかじかむ位だった。

今日は「郭公の鳴き声」を聞くのが楽しみだった。高原に響く郭公の声は、夏の到来を告げるものだ。天祥寺平に近づくと、やっぱり郭公が鳴いていた。ただ、まだ慣れない若鳥だろうか、鳴き方が「カッコウ・カッコウ」でなく、「カッコググ・カッコググ」と、何か冴えない。皆で、あれはまだ「新人だね」(新鳥)と評価した。(笑い)

例によってゴロゴロのゴロタ道を上る。実に歩き難い。花は少ない。上から沢山降りて来る。早い時間だが何処に行くのか。聞けば、大河原峠から蓼科山荘に上り、(蓼科山に上るかどうかも不明)天祥寺平に下り、亀甲池・双子池を巡り、再び大河原峠に戻るといふ。う〜ん、成程、その手があったか。なかなかイイではないか。感心した。



蓼科山荘

ゴロタ石上り



ゴロタ石に山荘まで30分と書いてあったが、なかなか着かない。程なく頭上で人声がして蓼科山荘着。登山者でごった返していた。総じて若い学生風が多い。殆どの登山者が、北の七合目から来る。こちらが最短距離。

山荘前の売店でオジサンが、セールスをしていた。何でも今日は、Tシャツが安いとか。長居せず通過。道はここから、前週同様、巨石を縫うように上る。次第に視界が広がる。山頂部が長く平らな特徴的な山が見えた。若い衆が、山名が分からないというから「荒船山」と教えた。「ミネザクラ」も分からないというから教えた。



鞍部に蓼科山荘

自称、83歳のオジサンが苦勞して上っていた。バランスが悪く両手を使ってフラフラ上っている。やや心配であったが、追い抜きかなり離れた時、そのオジサンが「ウワ～オ」みたいな声を上げ、真後ろにヒックリ返り落ちた。でも、ザックがあったので、大きな怪我はなかったようだ。上で同僚のオバサンが二人。伝えると一人下った。

この辺りは、「ミネザクラ」が満開で見頃だった。足元に、「イワカガミ」が咲いていた。やがて山頂ヒュッテ着。なかなか素敵な小屋。トイレは200ーだった。

ここから頂上はすぐ。ただ、冷たい風が吹いていた。蓼科山は冬も風が強い山で有名。連休の八方と同じで、風が通る山なのだろう。すぐ、帽子を被り、上っ張りを羽織り、手袋をする。昼食は少し下で風を避けて摂った。Mさんは、離れた方向指示盤まで足を伸ばした。



午後は再び、ゴロゴロ・ガラガラの道を下る。実に歩き難い。ここも雪のある時期が楽だ。こちらのルートは全く空いている。途中、日本語が上手い、中国人6名が遅い登山。最後の太めの方は、大汗を掻いていた。

下部に来ると、春ゼミが賑やかだった。この声は五月蠅いが、何故か嫌いではない。唐松の新緑が見事。ズミ(?)の花も満開だった。スズラン峠に降りて竜源橋に戻り終了。「ソバ」を食べたかったが、時間がなくパス。

今回も快適なイイ山でした。それにしても、山は多くの方で盛況。日本の皆さんは、本当に「山」が好きですね。



蓼科山山頂